



2017年 新しい年を迎えて	1ページ
世界糖尿病デー「糖尿病川柳」入選作品決定!!/「QC活動奨励表彰10周年記念賞」受賞!!/ごあいさつ	2ページ
通所支援のクリスマス会/5病棟の生活のひとコマ@/「やまぼとギャラリー」情報コーナー/三重病院のサラメシ①	3ページ
アレルギー教室のクッキング/外来からのお知らせ/外来診察のご案内	4ページ

2017年 新しい年を迎えて

国立病院機構三重病院 院長 藤澤 隆夫

あけましておめでとうございます。

今年も、皆様おひとりおひとりが輝く、明るい年になることを心から願います。

■便利でスピードアップの現代—ほんとうにいいの？

さて、現代は、どんどんスピードアップしていますね。ニュースはインターネットで一瞬のうちに世界中に広まり、買い物も、ゲームも、電車も、天気予報も手元のスマホで簡単・すぐ、たくさんの「ともだち」との連絡もSNSであつという間、リニア新幹線ができれば名古屋から東京まで40分?!! 他にも便利なものはいっぱいで、何でもスピードアップしてこなしてくれる…

でも、これは本当に「便利」で、生活に余裕をもたらしたのでしょうか? スマホをのぞき込んでいたら、ついつい時間が過ぎてしまい、結局、余裕はない、とか、ひとつのことを早く済ませたら別の用事を抱えてしまい、とか。もしかしたら、私たちはただ追われているだけかもしれませんね。

■スローライフと医療

そんなことの反省で、今はスローライフということが言われるようになりました。自然の中で、ゆっくりした生活を、です。一昔前までは、スローということばは、のろいとか、不効率とか、どちらかというマイナスのイメージでしたが、今みたいに早く早く、とせき立てられて弊害がでてくると、スローはポジティブな意味に変わりつつあるようです。

ここで少し医療のことを考えてみます。医学の世界は日進月歩です。新しい医療技術、診断法、治療薬は着実に進歩しています。その中で、私たち医療を提供する側としては「スロー」というわけにはいきません。三重病院も最先端で最良の医療を行うべく、いつも努力させていただいており、少しでも進歩に貢献しようと研究にも力をいれています。

でも、決して忘れてはいけないと思っているのが、スローライフ的豊かさであります。「小さな子どもから高齢者まで 社会的弱者を支える総合成育医療機関」という位置づけのもと、三重病院は心が通う医療を目指しています。ひとりひとりの患者様のペースにあわせて、笑顔とゆとりのある姿勢を保ちたいと、職員一同心がけていますので、どうかよろしく願います。

■今年のトピックス

さて、三重病院に隣接して、現在建設中の「三重県子ども心身発達医療センター」がいよいよ6月に開院します。児童精神科専門施設の「あすなろ学園」と小児リハビリテーション専門施設の「草の実リハビリテーションセンター」、児童相談所聴覚障害児支援部門の3つが統合された新しい小児医療・福祉施設です。三重病院はこれまで小児救急や小児慢性疾患医療を担ってきており、さらに発展させるつもりですが、これからは県の「新センター」とも連携しながら、小児の総合医療体制の確立に努力します。

■成人部門の充実

また、三重病院のもう一つの柱である成人部門でも、神経難病医療、呼吸器内科回復期医療、糖尿病代謝疾患医療、リハビリテーションについて、それぞれさらなるグレードアップを図っていきます。とくに、現在は2025年に向けた地域医療構想の策定が進んでいますが、当院は専門性を活かした地域連携に貢献したいと考えています。

■まとめとして

三重病院のパンフレットにも記載してありますが、小さな子どもから高齢者までの総合成育医療機関のイメージ図を示します。

この理念の下、患者様が安心して、よい医療を受けられる三重病院として引き続き頑張りますので、本年もどうかよろしく願います。

